9. レジュメの作り方

レジュメとはフランス語で要約という意味のことばです。英語でハンドアウトという場合もあります。大学で用いるレジュメとは、**1枚から数枚程度の紙にまとめられた発表内容の要約**のことを指します。演習（ゼミ）の報告や自分の研究発表の際には、レジュメを聴き手全員に配布します。

レジュメは自分のための要約ではありません。むしろ**コミュニケーションのツール**だと考えましょう。口頭の説明（聴く情報）に合わせ、レジュメにより読む・見る情報をプラスすることによって、聴き手の理解は、より深まります。

レジュメを作る際には、発表の目的によって、いくつかのポイントがあります。

※発表について、詳しくは『Master of Presentation』を参照しましょう。

どのような目的のレジュメか

目的や対象者に応じて、適切なレジュメを作るようにしましょう。

Ⓐ 他の人の著作を講読・討議するための報告資料として▶**テキスト・文献報告**

Ⓑ 自分の行った調査・研究の成果を発表する補助手段として▶**調査・研究発表**（次ページへ）

A テキスト・文献を読んで報告する場合

聴き手がテキスト・文献の内容を確認できるよう、テキスト・文献の構成におおむね沿う形で、見出し、各節の主な主張、根拠、結論などを、**短い文章表現（箇条書き、短文）**で示します。省略した部分は、発表の際に口頭で補足しながら説明していきます。レジュメに決まったスタイルはありませんが、そのゼミや専門分野によって、適切なスタイルがある場合がありますので、調べてみましょう。

テキスト・文献報告の場合にも、発表者自身のコメント（疑問や意見、参考情報）を求められることがあります。コメントは、必ずテキスト・文献の要約とは分けて書きましょう。そうでないと、著者の言っていることと、発表者の意見の区別がつかなくなります。

（例）

基礎文献講読ゼミ（教員名）　　2016年4月20日（水）
担当：法学部政治学科1年
16EC999X 立教 花子

雨宮処凛、2007、「ロストジェネレーションの仕組まれた生きづらさ－「九五年ショック」と強要される「自分探し」」、『世界』、771号、130-136。

［まえがき］
・「ロストジェネレーション（失われた世代）」とは、何を失ったのか
・筆者「生き方」そのものを失った

［1～2節］なぜこんなに生きづらい?
・筆者になかったもの　「生きる意味」
・テレビの中の大人たちが言う戦後日本の価値観＝理想的な人生は、多くの人が獲得できるもの「平凡な人生」という神話
→「頑張ってもまったく報われない」時代が到来

［3～4節］戦後50年、右翼活動へ
・この世代に課せられた「誰も知らないやり方で幸せになる」こと
・右翼団体、行き場のない若者の受け皿になっていた
・日本経済が力を失い、タブーとされてきた政治と宗教がにわかに輝きはじめる

［5節］生きることすらできない「自分探し」
・「新時代の日本的経営」　ワーキングプアの続出　強要された「自分探し」
・ロストジェネレーションにとって、生き方のモデルはいまだ確立されていない
→「生きさせろ」　若者たちが「生存権」を訴える運動

［コメント］
・これから先、失われた「生き方」を見つけることはできるのか
・ワーキングプアを減らす積極的方法はないのか
（参考：湯浅誠、2008、『反貧困―「すべり台社会」からの脱出』、岩波新書。）

- 演習などの科目名、日付、発表者名、担当テキストとその箇所をまず明記
- テキストのどの箇所であるかわかるように、章・節・ページなどを明記
- 要点やポイントは、太字にしたり下線を引いたりして分かりやすいように工夫する
- 文献の概略を箇条書きにする
- テキストの要約と自分のコメントは、はっきり分ける
- 参考文献を使用した際には明記する ※表記方法は「7. 文献表の書き方」（pp.15-16）参照

©立教大学 大学教育開発・支援センター

B 自分で調査・研究した成果を発表する場合（卒論、ゼミ論など）

卒論、ゼミ論、授業で与えられた課題の発表などは、自分自身で行った調査や研究を紹介するものです。その場合、テーマ、問題の所在（立てた問い）、先行研究との関係、独自の調査・研究方法、得られた結論などを、明確に示す必要があります。

テキスト・文献報告の場合、同じテキスト・文献を全員が読んでおり、発表者と聴き手が情報を共有している場合がほとんどです。しかし、調査・研究発表の場合は、聴き手にとっては初めて見聞きするものですので、発表する内容が聴き手によく伝わるように、資料・データ、文献目録などをレジュメの中にわかりやすく示すように工夫しましょう。

以下にレジュメの一例を示します。すべてがこの例と同じ構成になるわけではありません。発表内容に合わせてレジュメの項目を考えるようにしましょう。

（例）

専門演習（教員名）　　2016年4月20日（水）

福祉国家の発展と人口問題―スウェーデン、フランス、イギリスの比較―

法学部政治学科4年
13EC999X 立教 太郎

本報告の構成

本報告の目的 ― 先行研究とその問題点 ― 本報告において取り扱う事例：スウェーデン、フランス、イギリス ― 比較と結論 ― 今後の課題

1. 本報告の目的

戦前の人口問題に対応した家族政策の違いが、ヨーロッパ各国の福祉国家のあり方の違いにどのような影響を及ぼしているかを明らかにする

2. 先行研究とその問題点

（略）

3. 事例　①スウェーデン　②フランス　③イギリス

（略）

4. 比較と結論

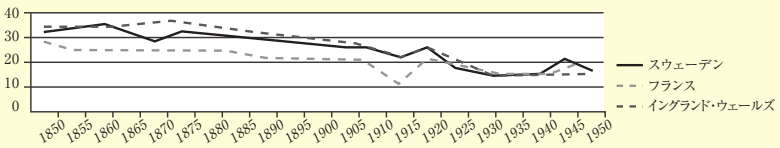
（略）

5. 今後の課題

文献・資料一覧

（略）

資料1 各国の出生率の変遷（1850年～1950年）



ミッチェル、ブライアン R.、2001、『マクミラン新編世界歴史統計1 ヨーロッパ歴史統計：1750～1993』（中村宏・中村牧子訳）、東洋書林。より作成

- 演習などの科目名、日付、発表タイトル、発表者名をまず明記
- 最初に発表の構成を示すと全体の流れが分かりやすくなる
- 説明する順番を意識して項目を並べる
- 参考文献や使用した資料の出典を列挙する
- 図や表を用いて視覚的な情報を追加するのも効果的
- 図表を使用する際には資料の出典を明記する

注意事項

- **レジュメを発表の時間より前に、必要な人数分用意し、配布できるようにしておくのも、大切なマナー、スキルです。**
- **レジュメの紙数が多すぎると、限られた時間の中で説明することも、聴いて理解することもかえって困難になります。あくまで口頭の説明と並行して読んでもらえる程度に、簡潔な内容に絞りましょう。**
- **パワーポイントなどを用いて、スクリーンでプレゼンテーションする場合も、レジュメを配布することで、聴き手の理解を促すことができます。**

©立教大学 大学教育開発・支援センター